

[平成28(2016)年9月28日]

読売新聞(夕刊)

3人の遺伝子持ち誕生

米の不妊クリニック

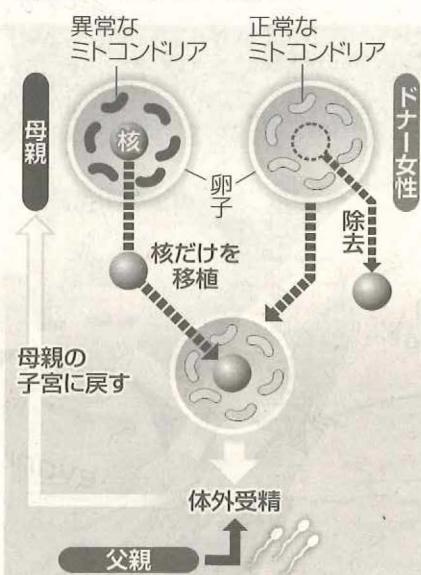
【ワシントン=三井誠】母親の卵子から遺伝情報を含む「核」を取り出して、ほかの女性の卵子に移植し、受精後に出産させることに米ニューヨークの不妊クリニックが成功していたことが27日わかった。AP通信などが報じた。核を移植された卵子に含まれる小器官のミトコンドリアは別の女性の遺伝子を持つおり、生まれた子は両親も

あわせ3人の遺伝子を持つことになる。核移植により3人の遺伝情報の大半を含む核を引き継がないよう、母親の遺伝情報の大部分を含む核をほかの女性の卵子に移植し、4月に男の子の出産にこぎつけたという。米国でないため、治療はメキシコで行つたとみられる。

◆
卵子の核移植について
AP通信や英BBCテレビなどによると、この母親のミトコンドリアにはリ

卵子の核移植で

◆卵子の核移植の仕組み



□ ミトコンドリア 細胞内の核以外の細胞質に含まれる小器官で、エネルギーの産出や感染の防御などの機能がある。母親から受け継ぐ。異常があると、脳や筋肉、心臓などに様々な病気が生じる。その一つのリーリー脳症は、精神発達の遅れや筋力低下などの症状が出る。

◆
卵子の核移植について
AP通信や英BBCテレビなどによると、この母親のミトコンドリアにはリ

は、英國が昨年2月、生殖医療に関する法律を改正し、重い遺伝病を持つ女性を対象に、世界で初めて治療を認めた。国内では法規制はなく、一部のクリニックで基礎的な研究が行われている。石原理・埼玉医科大学産婦人科教授は、「ミトコンドリアの異常による病気の根本的な治療になる可能性があるが、各国で、倫理的な議論を行い、ルールを定めた上で、透明性を確保して進めるべきだ。今回、実施に至った経緯や、生まれた子どもの健康状態を継続的に確かめる必要がある」と話す。